

● 11月5日～9日 WRO 2009 世界大会 韓国・浦項市 保護者の皆様有難うございます



競技部門:「世界第2位」



自由製作部門:「世界第8位」



競技部門:「世界第7位」

正確な動作 過去最高位

宇都宮工業高

ロボット競技世界2位



自律型ロボットの競技大会WROで2位になった宇都宮工業高の生徒ら

【宇都宮】自律型ロボットの競技大会「WRO」の国際大会が7、8日、韓国の浦項工科大で開催され、宇都宮工業高のチームが2位の好成績を取めた。大会には中国やマレーシアなど世界32カ国から250チーム約1千人が出場。世界を相手に2位と健闘した同校2年の佐藤寛也君(16)は「うまくロボットが動いてくれました。来年は優勝を狙いたい」と喜んでいる。(斎藤泰行)

練習結実「来年は優勝を」

「WRO」はワールド・ロボット・オリムピアードの略で、2004年に始まった国際的なロボットの競技大会。宇工高からは、定座システム研究部(以下、システム研)の部員12人が4チームを組んで参加。「レギュラーカテゴリー」で、佐藤君と伊藤摩也君(16)のチーム「スタビライザー」が2位の成績を挙げた。「レギュラーカテゴリー」は縦2・4センチ、横1・2センチの穴に、ロボットが赤と青のボールを入れていく競技。大会は世界中の小学生から高校生を対象に、科学技術を身近に体験できる場を提供し、創造性を育成する目的で開催している。同校は05、06年のパンナム大会に初出場して以来、過去4回出場。これまでの最高位は07、08年の4位。指導にあたった蓮田裕一教諭(51)は「本番を想定して積み重ねてきた練習が実った。来年は優勝を競いたい」と話している。

チームは180点満点で2回満点を取ったが、1位の中国と比べると、タイムアウトに惜しくも敗れ2位になった。



宇工ロボット世界準V

3人チーム、韓国の国際大会・高校生部門

自律型ロボットの国際大会「ワールド・ロボット・オリムピアード(WRO)」が7日、韓国の浦項市であり、日本代表の宇都宮工業高校のチーム「スタビライザー」が高校生部門で準優勝し、銀メダルを受賞した。同校は07、08年にも4位に入賞したが、メダル獲得は初めて。(大津正一)



高校部門には24カ国の48チームが出場。日本代表は282チームが参加した地区予選を勝ち抜いた4チームで、うち3チームは宇都宮工産システム研究部の生徒たちだった。準優勝したスタビライザーは、2年の伊藤吉一さんと佐藤寛也さん、1年の藤野慎也さんの3人。今年、縦2・4センチ、横1・2センチのエリア内に置かれている直径5センチの赤と青のボールを、赤と青に塗られた穴に色分けして入れる正確さと速さなどを競った。

色識別、速さ競う「結果うれしい」

佐藤さん、伊藤さん、藤野さんの3人と、生産システム研究部顧問の蓮田裕一教諭(右から)＝8日、韓国・浦項市、宇都宮工業高校提供

スタビライザーの3人が作ったのは、赤と青の色を認識できるセンサーを付け、ミスをはたさない精度の高いロボット。日本国内の予選では4個のボールをすべて正確に穴に入れたが、時間差で3位だった。世界大会では、ボールの数や床の材質などの細かいルールが大会前日の6日に発表され、3人はその夜から明け方まで、宿泊先のホテルにコースを作り、機械やプログラムを試行錯誤した。結果は、7個のボールすべてを正確に穴に入れるなどして満点。同じ満点の中国のチームに速さで及ばず2位だったが、ロボットの精度を追求したことが好成績につながった。チームリーダーの伊藤さんは「大会前の2カ月間は放課後に毎日4時間くらい製作に取り組んだ。楽しんでできたし、なにより結果が出せてとにかくうれしい」と話す。WROは04年に始まり、今年が6回目。ロボット製作とプログラム開発の総合的な技術を競う世界規模のコンテストで、253人でチームを組み、操作をせずにプログラムによって動く自律型ロボットのスピードと技術を競う。小学校、中学校、高校の3部門があり、今年には地区予選に31カ国1万1760チームが参加し、国際大会では24カ国250チームが競った。